



一般質問

一般質問とは、議員が市政全般にわたり、市の考えを問うものです。掲載内容は、各議員本人が質問と答弁を要約したもので、すべての質問と答弁は、市議会ホームページの録画中継やYouTubeで視聴できます。

二次元コードを、スマートフォンのQRコードリーダーで読み取ることで、一般質問の録画中継がYouTubeでご覧いただけます。

※一般質問は6月18日～21日に行いました。



農大跡地の活用と今後の管理体制は

前田 幸一 議員

問 農大跡地の活用に向けた具体的な取組はないか。また、民間企業からの問い合わせはないか。

答 当該土地の活用策について、議論はしたが具体的な計画はない。また、民間からの問い合わせはない。

問 広大な面積を有し、観光地の中に位置する場所のため、全庁的な協議をすべきではないか。

答 庁内横断的に情報共有を行い、地域住民の意向なども踏まえながら、今後の利活用の方向性を検討する。

問 観光地の中心部でもあるため、適切な維持管理が必要と思うがどう



現状の農大跡地

か。また、全庁的な協議を行う場合、地域住民の要望も考慮して欲しい。

答 維持管理を行うにも膨大な予算を要する。周辺施設や近隣住民に影響がないよう適切な維持管理に努めていく。住民の意見も聴きながら検討する。



横断歩道ハンドサイン運動の推進を

川窪 幸治 議員

問 横断歩道ハンドサイン運動を推進して運転者・歩行者の安全を図れないか。

答 交通安全対策基本法に基づき、5年ごとに交通安全の施策を定めた「霧島市交通安全計画」を策定、「横断歩行者の安全確保」を目的に、運転者に交通ルールの再確認と遵守意識の向上を図っている。

特に信号機のない横断歩道では、運転者に横断歩道手前での減速や歩行者優先の徹底を、歩行者には意思表示をし、横断中も気をつけるように安全教育を実施している。

さらに学校では、徒歩や自転車通学に関する安全指導を実施し、横断歩道で歩行者と運転者が互



鹿児島県スマイルコンタクトポスター

いにハンドサインや笑顔でコミュニケーションをとることで、歩行者の安全を高める「スマイルコンタクト」の実践を呼びかけている。鹿児島県警本部および関係団体と連携し交通事故の防止と市民の安心・安全の確保に努める。



詳しくはこちら



詳しくはこちら



学校給食費の無償化やより良い学校給食を

宮内 博 議員

問 霧島市も学校給食無償化に踏み出すべきではないか。給食に活用する食材は、地産地消を進め有機農産物を積極的に活用すべきではないか。

答 県内で19自治体が無償化している。無償化には、毎年度、5億円以上の財源が必要となるため国の動向を注視する。有機野菜を含む地場産食材の使用率向上に努める。

問 単人学校給食センターの民間委託計画があるが、安心安全な給食を届けるには安心して働ける現場こそ求められる。市内のすべての給食センターを民営化する計画か。

答 撤去計画は約6万8千立方メートル。排水対策は、事業の効果を確認し、弾力的に進める。

答 南部給食センターは、調理業務を委託しており、単人給食センターも委託の準備中である。その他の委託は考えていない。

天降川周辺の豪雨災害対策の強化を

問 令和6年度の天降川水系の堆積土砂の撤去計画はどうか。西瓜川原排水機場周辺の排水対策は前倒しで実施すべきではないか。

答 令和7年2月の開院時点では、一部施設の改修が必要であり、人員体制も満たさないことから指定要件は満たさない。



地域救命救急センター指定に向け、早急な検討を

山口 仁美 議員

問 医師会医療センターは2次救急拠点として位置付けされている。最新の調査では、本市内ほとんどが3次救急エリア外であり、医師会医療センターが地域救命救急センター指定を受けた場合には、カバーできると見込まれている。新病院稼働時に、3次救急の指定要件を満たすか。

答 市民のために、霧島市内にあるべきと考えられる。病院の安定経営も大切であり、開院後、状況を確認しながら、指定について検討を進めていく。

問 指定を受けた場合、どのような財政的影響があるか。

答 指定基準を満たすためには、ICU設置や人

員の確保などに多額の経費が必要となる。その経費の一部として特別交付税措置がある。

問 市として、地域救命救急センター指定を目指すべきではないか。

答 市民のために、霧島市内にあるべきと考えられる。病院の安定経営も大切であり、開院後、状況を確認しながら、指定について検討を進めていく。

問 指定を受けた場合、どのような財政的影響があるか。

答 指定基準を満たすためには、ICU設置や人



消防団は地域防災力の中核より良い消防団活動を

今吉 直樹 議員

問 合併から20年を迎えようとしている今、地域消防の現状を分析し、これからの消防団の在り方を議論する時期にあると考えるがどうか。

答 消防団の在り方については、消防団や自治会、地域住民、消防後援会などの意見を十分に踏まえ、地域の人口・世帯数・地域の地勢など、さまざまな諸事実を把握しながら、統廃合を含めた再編なども視野に入れて検討していく。

問 避難が長期化する場合、備蓄食料などを備える必要があると考えるが、状況と対応はどうか。

答 備蓄状況は、令和5年度末現在で、主食類が2万1006食、うちアレルギー対応食料が8558食、粉ミルクが40缶、液体ミルクが120缶であり、本庁や各総合支所など15か所に分散配備している。



アレルギー対応の非常食



詳しくはこちら